

IVR -Interventional Radiology-

【IVR 治療について】

IVR はインターベンショナル・ラジオロジー (Interventional Radiology) の略で、日本語では画像下治療と訳されます。X線透視やCT、超音波などの画像ガイド下で、体の中を見ながらカテーテルと呼ばれる小さい管や針を用いて治療を行います。現在、さまざまな医療場で活躍の場を広げている治療法です。

IVR 治療のメリットは？

外科手術のように皮膚を切らずに、臓器や血管の治療ができます。そのため、患者さんの体への負担が圧倒的に少ないという特徴を持っています。医療器具を入れる穴も数ミリ程度と小さく、器具を抜いた後は縫う必要もないため、傷もほとんど残りません。

どのような治療ができますか？

動脈瘤の破裂を未然に防ぐためにカテーテルを血管内に通し、コイルやステントグラフトと呼ばれる器具を用いた塞栓術が可能です。また、血管のつまりや狭窄を原因とする心筋梗塞や脳梗塞に対して、病変部である血管を広げて血流を正常にする治療も行うこともできます。

肝細胞がんなど一部のがんに対しては、一般的な化学療法とは異なり、がんを栄養する血管にカテーテルから抗がん剤を直接注入する治療 (TACE) も行っています。

当院では、緊急の IVR に 24 時間対応できる体制をとっています。各診療科の IVR 治療については、病院ホームページの「診療部門のご案内」よりご覧ください。



ご不明・ご心配なことは診療放射線技師にお尋ねください。
中央放射線部ホームページも是非ご覧ください

<https://aichi-med-u-radio.com>



【最新装置の特徴】



Canon 社 Alphenix INFX- 8000C

当院の高度救命救急センターに導入された新装置は CT 装置と血管撮影装置を組み合わせた IVR-CT です。

【Hybrid ER の紹介】

救命救急センターに、CT 撮影による画像診断・IVR によるカテーテル治療・開腹開胸手術などの外科的処置を患者さんのベッド移動なしで行うことができるシステム「Hybrid ER」を導入しました。

Hybrid ER の導入により患者さんの移動に伴う負担の軽減や時間の短縮が可能であることから、救命率の向上が期待できます。